



日本医療機能評価機構 認定病院

庄原同仁病院

広報誌 第35号

発行 庄原同仁病院広報新聞委員会

〒727-0203 庄原市川北町890-1

Tel:0824-72-7300 Fax:0824-72-7333

e-mail doujin@sweet.ocn.ne.jp

URL http://nagaekai.com/

【写真】山口ゆめ花博会場

山口きらら博記念公園

きらめく光と花がシンクロ

写真提供：写真同好会

♥+ながえの里だより

幸せって何だろう

院長 村尾 文規



幸せの秘訣はさらに多くを求めるのではなく、より少なきを楽しめる能力を磨くことである (ソクラテス)

日本の食品廃棄量は年間1900万トンで、金額にすると111兆円にもものぼるといふ。資源の無駄、労力の消耗、人件費の浪費などを考慮すると、その損失は計り知れない。いつでも温かい食品が得られるという幸せとは裏腹に、大きな不幸を背負っていることを考えたことがあるだろうか。幸せは不幸せと表裏一体ということなのか。ラッセルの幸福論には、幸せは星の数ほどあると書いてある。今日も元気で仕事ができる、温かい食事が食べられる、同僚と談笑できるなど、その人にとって心が満ち足りていれば、立派な幸せである。しかし、喜びの質や強さは欲求の種類とその強さやその背景によって規定される。『物質的な幸せより、持続的な精神的な幸せが、如何に良質な幸せであるか』を理解する能力を養うべきであろう。酒井雄哉師は『今いるところが一番幸せだと思っていればいい』と論ず。無駄な言葉をそぎ落とし、平易な言葉で人の生き方、幸せに生きる極意を表現している。

幸せとは、心身の健康、社会との関係性、経済社会状況を指標として評価するものらしい

(山内直人氏)。二分法で考える人には、幸せをお金で評価するが、幸せとは、複雑な概念である。安易に幸せを評価するのは禁物である。7年間に4万キロの回峰巡拝という厳しい修行を満業され、生き仏と称された老師の著書には、『頭をからっぽにする』というフレーズが随所に表れる。『頭をからっぽにする』とは、余分なことは考えないで、自分に出来ることを、自分に与えられた仕事を、日々、念を入れて従事すればよいということらしい。人生は、偶有性の連続である。何が起こるか分からない。無常を生きている。次々と余分なことを考えれば悩みは、絶えることがない。目の前にあることに一生懸命になれ。一瞬一瞬を大切に思って、小さな幸せを見つけることが生きる極意だと論じているのであろう。小さな幸せには、裏切られることも少なからう。人それぞれに幸せになる権利があるのだから、他者の幸せを邪魔しないことこそ、各々の義務と言えよう。冒頭のソクラテスの幸せの秘訣とは、『知足者富 (老子)』、現状に満足して、不満をもたなければ幸せになれるという意味にも解釈できよう。 小さな幸せを大切にしたいものである。

基本理念

わたくしたちは、すべての人に等しく
仁愛の精神をもって接し、
心の通う医療の実践に努めます。

基本方針

患者様の満足:常に患者様の立場に立って行動します。
職員の満足:働きやすく、やりがいのある職場づくりに努めます。
地域の満足:医療サービスを通じて地域の方々に喜ばれるよう努めます。

仕事と家庭の両立を、時短労働の現状 (働き方改革の実情)

育休からの職場復帰

尾原 美香 (看護部)



私は、娘が1歳になって仕事復帰をする際、子育てと家事をしながら仕事をすることに自信がなかったため、1日3時間の短時間勤務で復帰しました。

復帰前は、短時間勤務なので少し余裕を持って子育てと家事が出来ると思っていたのですが、復帰してみると一息つく時間もなく、時間に追われる毎日でした。

娘は保育所から帰ってくると、いつも以上に甘えたいのと、違う環境で疲れるのか機嫌が悪く、娘が帰ってきてからは家事がほとんどできません。夕食を食べさせて風呂に入れるのも一苦勞です。そして夜も何回も泣いて起きるため睡眠不足も続いています。

こんな状態で仕事が続けていけるのかと考えましたが、スタッフからの「待ったよ」「戻ってきてくれてありがとう」という暖かい言葉や、患者さんからの「覚えとるよ」「またよろしくね」という言葉がとても嬉しく、元気をもらいました。私も娘も、今の生活に少しずつ慣れて余裕を持てるようになると信じて頑張ります。

介護職の在宅介護

伊達 信介 (広報新聞委員)



私の母親は要介護状態になって半年以上経ちました。入院時はいつも「家に帰りたい。いつ帰れるのか？」と毎日毎日同じ言葉を繰り返し動き廻り院内のスタッフ、先生方を困惑させたものです。私自身、職場で帰宅願望があり情緒不安定になる患者さんを多く見てきました。外出でも可能なものなら、家族の協力を得て少しの時間でも外出させてあげたいとその患者さんたちを思い見てきました。

そう、誰もが住み慣れた地域、思いの詰まった自宅ですとずっと過ごしていきたいと思っていますよね。私はこの歳になるまで母親に甘えて迷惑をかけ続けてきました。年老いた母親を見て少しずつでも願いをかなえられるように思いました。

しかし現実には厳しく介護保険のサービスを利用し、勤務の調整をしながら在宅介護をしていますが、高齢の母親は日常の生活動作すべてにおいて時間がかかり、年齢と共に物忘れもあり今、話したことがすぐに分からなくなり何度も何度も同じ会話を繰り返し、自分もいけないと分かっているのに、ついイライラしてしまい口喧嘩することも多くなっています。

そんな母親が時折、神棚、仏壇の前で一人話す「どうか息子を助けてやってください。守ってやってください。」のひと言を聞き、後悔する自分がいます。「ごめんよ。ありがとうお母ちゃん。」と。母親がほっと安心できる時間を少しでも多く持てるように自分はまだまだ介護について学んでいかなければいけないんだなと、改めて思っています。

定年退職し、パート勤務で思う事

加藤 美代子 (看護部)



今年7月、33年以上勤務した職場を円満退職という形で無事、節目を迎えられた事に改めて、多くの人の助けがあり、自分で好きで選んだ職を全うでき事に感謝の気持ちで一杯です。県北に住む私は、豪雪地帯です。夜勤以外でも豪雪・豪雨で病院に泊りながらの勤務でした。大雪の日は、早朝より主人が雪かきをしてくれました。今は除雪機もあるけど、以前は人力にて除雪をしてもらった事に感謝です。

職場では、色々な委員会を通して、広島研修等々で多くを学ばせてもらいました。最後は認知症委員会を希望し、…自分の行く道…と関わりをもたせてもらった事は、これからの人生の役に立つ事だと感謝しています。退職後、姑さんも心臓の手術をし、現在、私はパート勤務として従事させてもらっています。少し長く休むと会話の出来る患者様より「久しぶりじゃね、元気じゃった？淋しかったよ」等々、声を掛けてもらい、待ってられる患者様もおられる、引き続き寄り添っていきたいと思いました。パート勤務で姑さんと関わる時間も多くなり、家庭菜園の指導をしてもらいながら見守りが継続出来たらいいなと思っています。両立が長く続く様、職場で若い人のエネルギーを浴びて！時間給アップを楽しみに！「人生100歳」時代を健康に注意して笑顔で勤めて行きたいと思っています。どうぞ、これからも皆様、宜しくお願い致します。



栄養課の取組み



あるお手紙から

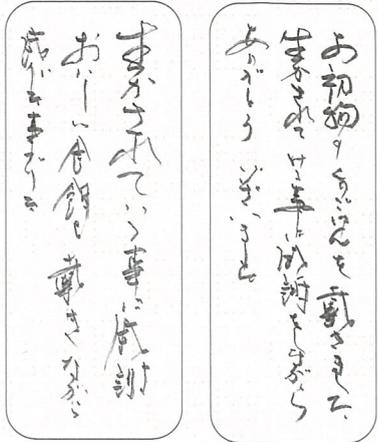
栄養課では患者様のお誕生日に、お祝として“お祝い膳”をご用意させていただいています。患者様から食べたいものをお聞きし、大好きな物ばかりがお膳にのります。患者様の笑顔がうれしく、今後も続けていければと思っています。



お寿司、刺身は患者様希望の多い品です



デザートにも色々な物が並んでいます



患者様から栄養課にお手紙を頂きます。要望だったりメニューの注文だったり、中には、感謝の直筆のお手紙もあります。栄養課職員全員で読ませていただき、癒されたり、もっと頑張ろうと思ったりとみんなのエネルギー源になっています。



院内畑の収穫だより



今年も春の菜の花から始まり、夏から秋にかけて菜園でいろんな野菜や果物が収穫できました。イチゴ摘みから始まり、メロンやうり、スイカ、ピーマン、オクラ、パプリカなどなど最期の収穫はさつまいもでした。患者様と一緒に楽しみながら収穫しました。来年は何をうえようかな？



希望された患者様と一緒に芋の収穫をしました。とれたお芋は給食に使ってもらい、美味しくいただきました。



スイカは小玉、大玉と作りましたが、どちらも昨年より、良い出来でした。



害獣対策もばっちり、いろんな動物がやってくるようです。

山ちゃんの旅日記

… 宮島の新スポット …

山吉宏尚



10月7日、宮島に行って来ました。日曜日という事もあり観光客が多かったです。今回は宮島フェリーターミナルの正面、徒歩1分の所にある「巖島豆芝カフェ」に行って来ました。

店内には豆芝（小さいサイズの柴犬）が9匹いて、それぞれに名前が刺繍されたスカーフをつけ店内を歩き回っています。

店内では、おひとり様30分（ワンドリンク付き）、撮影は出来ませんが、抱っこやカメラのフラッシュの禁止などなどのルールがありますので注意して下さい。中国地方には宮島の他に倉敷にもあるので、みなさん是非立ちよってみて下さい。



いろいろな豆芝君が迎えてくれます

院内トピックス

川北小学校 1年生～4年生の皆さん



川北小学校交流会

10月15日川北小学校の1年生から4年生の児童11名先生が来院されました。生徒さんたちは、自己紹介や、歌、楽器の演奏、詩の朗読をしてくれました。ハキハキと大きな声で一生懸命発表してくれる姿に、患者さまも自分の孫を見守るように、「かわいいね!」と言いながら目を細めておられました。生徒さん達は、交流の後、病院の下の栗林で栗拾いを楽しんで帰られました。川北小学校の皆さん、患者さんに元気をくださいましてありがとうございました。



さすが慣れた手つきであっという間にたくさんの栗を拾われました。来年もまた来てくださいね!

歌や演奏に患者様は大喜びされておられました



熱唱される、やしま様

夏の終わりに

夕涼み会

今年も8月の終わりに夕涼み会を開催いたしました。夏祭りの雰囲気を楽しんでもらえるようにと、この日だけに用意した特別メニューは好評でした。いつもは食欲のない患者様も喜んで食べられ、お手紙までいただきました。本当に喜んでもらったことがスタッフにとっては何よりうれしく思いました。ゲストに、やしまとしお様がボランティアで来てくださり、歌を披露してくださいました。やしま様は何回か当院にボランティアで来てくださっていますが、患者様のご家族は初めてで、聞かれる方は「いい声をされていますねー」と聞き惚れていらっしゃいました。やしま様、今回もありがとうございました。



フレッシュな スタッフが 急増中!



(写真左上より)

佐藤志帆 (看護部2病棟)

右も左も分からない事だらけですが、よろしくお願ひ致します。

奥田さやか (看護部2病棟)

ぬけている性格ですが、一つ一つ頑張ります。いろいろ教えてください。

北受美咲 (看護部2病棟)

常に笑顔忘れずに、心のこもった看護を提供したいです。

阿保久仁子 (看護部2病棟)

療養型病棟は初めてです。よろしくお願ひします。

妹尾聡史 (栄養課)

栄養課でお世話になっています。

皆様に、美味しい食事を召し上がっていただけるよう、頑張ります!!

光木久爾子 (栄養課)

栄養課に勤務しています。課の先輩方に支えられてのお仕事、感謝しています。

藤原奈津美 (リハビリテーション科)

回りハとの違いに戸惑うことも多いですが、有意義な作業療法を提供できるよう努力しますので、よろしくお願ひします。

倉岡聖子 (看護部)

みなさんの笑顔と「ありがとう」の言葉が嬉しくて、今日も頑張っています。

編集後記

今年の夏、西日本豪雨災害、そして北海道地震の災害にあわれた方々に心からお見舞い申し上げます。

今の時代、このような災害がいつ起きるかわからない日本、人の生き方や価値観も多様化しています。同じ職場においても年代によって考え方の相違があり、幸せの定義そのものが違ってきています。働き方改革という言葉をよく耳にしますが、そういった違いを理解しながらお互いが経済的にも精神的にも豊かに人生を送れる方法を模索していくのが働き方改革ではないかと考えています。これからAIの進化、LOTが進む中で想像もできない時代がやって来ると思います。しかし、“人を想い行動する”という思いは、誰も価値観の中に残してほしいものだと思う今日この頃です。(西村美智子)

